

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 1 1 号

平成 2 2 年 3 月 4 日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	平年並	やや少ない
		イネシンガレセンチュウ	平年並	やや少ない
果樹	ナシ	黒斑病	やや早い	平年並
		ハダニ類	やや早い	平年並
		カメムシ類	-	やや多い
野菜	ラッキョウ	白色疫病	平年並	多い
		灰色かび病	やや早い	やや多い

気象予報（抜粋）

1 か月予報（2月27日～3月26日：2月26日、広島地方气象台発表）

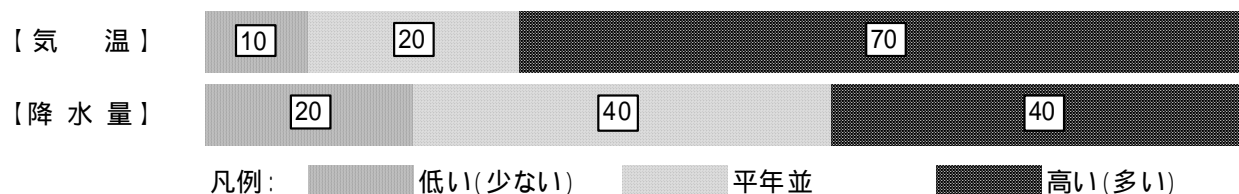
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

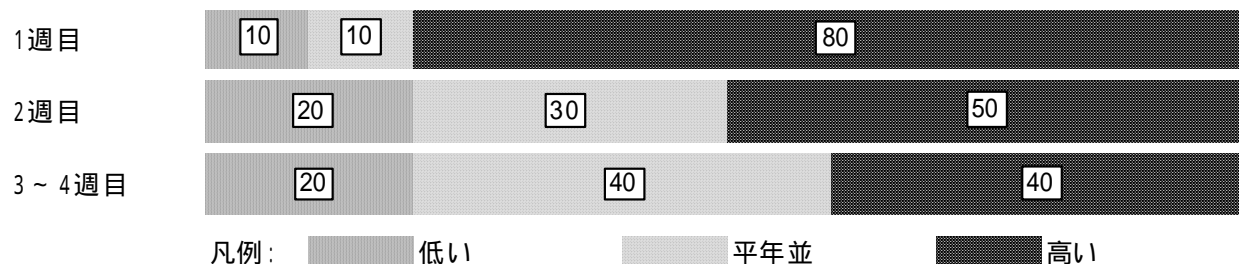
向こう1か月の気温は高い確率70%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率50%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	平年並(育苗期)
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した粕は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜水の交換を行う。

エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせる。また、薬液の温度が10以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生はやや少なかったため、汚染率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した粕は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。

エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので、注意する。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期	やや早い
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、短果枝の病芽率はほぼ平年並であったが、一年枝上の枝病斑数および病枝率は平年をやや下回った。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 3月中に枝病斑削り取り後のトップジンMペースト原液による塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2～3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見て病斑の削り取りとトップジンMペースト原液の塗布を行う。

イ 3月下旬～4月(発芽期～開花前)になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2～3回見回り、短果枝及び腋芽の腐れ芽を徹底して取り除く。

ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液などを散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液又はベルコートフロアブル1,500倍液など、開花始めにチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル)500倍液などを散布する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は平年並～やや少なかった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮及び誘引なわ等に越冬成虫(あるいは越冬卵)が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。

イ 防除は3月中旬にハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

3 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、1トラップあたり8.4頭(平年:8.2頭)で、ほぼ平年並であった。しかし、越冬量が過去10年間で最も高い地点も認められている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山際及び作業小屋周辺では、越冬成虫による幼果の被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 越冬密度が高い地域が散在すると見込まれることから、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。

野 菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病（平成22年1月29日付、病害虫発生予察注意報第5号発表）

（1）予報の内容

発生時期	平 年 並
発 生 量	多 い

（2）予報の根拠

ア 2月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年と比べて多い。

イ 本病は、連続降雨や積雪により、急速に発病が広がりやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は引き続き多いと予想される。

（3）防除上注意すべき事項

連続降雨時の雨の止み間や、積雪後の雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを、薬剤の使用回数に注意して散布する。

2 灰色かび病

（1）予報の内容

発生時期	やや早い
発 生 量	やや多い

（2）予報の根拠

ア 2月下旬現在、現地調査ほ場において本病の発生は認められていない。

イ 過去の発生状況から、白色疫病の発生が多いと、本病も多発しやすい傾向がある。

ウ 2月下旬以降、温暖な気象条件が続いており、本病の発生に好適となっている。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量はやや多いと予想される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 3月上～中旬から、フロンサイド水和剤2,000倍液、ロブラール水和剤1,000倍液、ダコニール1000の1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液などを輪番散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉上に多数の分生胞子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.famic.go.jp/>) から検索できます。

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

< 鳥取県病虫害防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報や病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病虫害防除所
〒680-1142 鳥取市橋本 260
TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-0723
E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回新年度予報第1号の発表は、平成22年4月8日(木)の予定です。